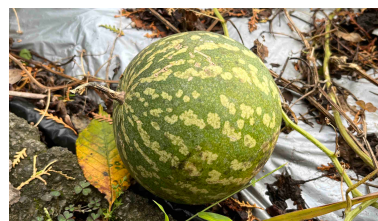


薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
9月22日
第137号

ハナシュクシャ（ショウガ科）

園、通用門入って左側と第三圃場で純白の大きな花が見られます。インドシナ半島原産で、英語名が、ジンジャーリリーまたはジンジャー。花は夕方になると甘い香りが漂います。花、根茎からは精油を採り、香水にします。日本には江戸時代に導入され、伊豆半島、伊豆諸島で鑑賞用、香料原料として栽培され、伊豆縮砂という別名もあります。ジンジャーという英名は、ショウガの英名と同じなので紛らわしいですね。さらに、生薬の縮砂（シュクシャ）とは基原が異なり、そちらはミャンマー、ラオス、ベトナムなどに自生するショウガ科の多年草の種子です。ハナシュクシャの根茎は、路辺姜（ロヘンキョウ）という生薬となり、中医学で祛風除湿、温中散寒を目的に、カゼ、頭痛、関節痛、筋肉痛などに使用されます。

コロシントウリ（ウリ科）

管理棟前の圃場に、小玉スイカのような果実が転がっています。北アフリカ原産のつる性の一年草です。スイカとは同属植物で、花も葉も形がよく似ていますが、こちらの果肉には強い苦味があり、むしろ強すぎる瀉下作用があるため、本園では毒草扱いとしています。北アフリカでの民間薬で、果実から果皮と種子を除いた白い果肉部を乾燥させて得られたスポンジ状のものが、生薬のコロシント実です。この中にコロシンチンという苦味配糖体が含まれていて、これが瀉下活性成分です。また、種子から絞り取った搾油が、セッケンの原料として用いられているそうです。